

感染拡大時における医療提供体制

新規陽性者数の増加を踏まえ、医療提供体制を**第6波ピーク時の水準に強化**

感染拡大防止

熱中症予防との両立策を示しつつ、基本的な感染防止対策として、場面に応じた正しいマスク着用を呼び掛け

モニタリング・サーベイランス

東京iCDC及び医療体制戦略ボードなど専門家を含めた健康危機管理体制を強化
感染状況やウイルス特性に応じたモニタリング強化

感染拡大や変異株に備えた監視体制: 変異株PCR検査(3.1万件/週)、ゲノム解析(1万件/月)

ワクチン

3回目接種の加速

利便性の高い接種会場(都大規模会場、区市会場)の周知、ワクチン接種の**効果や必要性を発信**
ワクチンバス(移動式接種会場)の機動力を生かした**若い世代への接種促進**(職場、大学等)
大学に夏休み前の接種を働きかけ、**企業**への働きかけ
都・大規模会場での予約なし接種拡充(モデルナのみ ファイザー、ノババックス追加)

4回目接種の推進 (区市町村:5月下旬~、都・大規模会場:6/1~)

高齢者・障害者施設入所者の確実な4回目接種促進(**接種計画**の推進・**ワクチンバス**の派遣)
基礎疾患を持つ方等に対して**医療機関**から働きかけ、**高齢者団体**、**企業**への働きかけ

感染拡大時における医療提供体制

検査体制

検査全体で最大約29万件/日の体制を確保

行政検査 検査体制最大約10万件/日(第6波時の最大実績4.7万件/日)、
供給不足を見据え、集中的検査のスキームを活用して抗原定性キットを予め確保
供給不足時の行政検査向けへの優先的なキット供給を卸売業協会に要請
検査キットの確保を国に要請

集中的検査 入所系 :PCR週1回+抗原定性週1~2回(第6波時はPCR週1回)
通所・訪問系:抗原定性週2~3回(第6波時は抗原定性週1回)

無料検査 検査体制約5万件/日(第6波時は約3万件/日)、
定着促進事業:8月末迄延長、一般検査事業:当面の間延長)

濃厚接触者への検査キット配布 4万件/日(当面の間延長)

診療・検査医療機関(約4,500機関)を冬も見据えて更に拡大
(診療所におけるゾーニング等の施設整備、検査機器の増設支援等を活用)

感染拡大時における医療提供体制

医療機関等

現在、通常医療との両立を図るため、**病床確保レベル1 (5,047床)** 最大確保病床 7,179床
感染拡大のスピードを踏まえ、病床確保レベルの引き上げを準備
引き続き、専門家の意見や現場の状況を詳細に把握
病床使用率40%：通常医療(熱中症など)とのバランスを踏まえ、病床レベル引き上げを判断
高齢者等医療支援型の臨時の医療施設を整備(200床、うち100床は7月中に開設予定)

軽症者等の宿泊療養施設や自宅等への退院を促進

通常医療と感染症医療の両立に向け、病院におけるゾーニングなどの施設整備への支援を強化

酸素・医療提供ST

病床ひっ迫に備え、受入促進
(一時入院機能の発揮、軽症・無症状の高齢者の受入拡大、処方薬の確保など)

宿泊療養施設

施設稼働レベル1 (約 9,000室) **レベル2 (約 12,000室)へ引き上げ**
うち医療機能強化型 220室、妊婦支援型 40室
病床ひっ迫に備え、医療機関からの下りの患者の受入れを促進、**高齢者の受入拡大**

感染拡大時療養施設

立飛279床(うち医療機能強化型施設100床)、感染状況に応じて高松130床を稼働

感染拡大時における医療提供体制

自宅療養体制

発熱相談センター：最大体制の340回線に対応

自宅療養者フォローアップセンター：4か所 最大体制の600名に対応

自宅療養サポートセンター（うちさぼ東京）：最大体制の340回線に対応

食料品配送：在庫約11万食、最大体制の9.6万食/週を製造（配送能力1.8万件/日）

新規陽性者数の拡大状況に応じて、健康観察対象者の重点化や配食方法の見直し

高齢者対策

施設の感染制御・業務支援体制の強化：支援チーム派遣体制（10施設/日）、保健所からの感染情報等に基づいた**プッシュ型（能動型）支援の開始**

高齢者施設への往診体制強化：施設向け医療支援チーム体制（25地区医師会）

高齢者施設等職員の頻回検査（週1回 週2～3回）を実施

臨時の医療施設の高齢者等医療支援型施設（赤羽）137床を設置（5/9～）

さらに高齢者等医療支援型施設200床を整備（うち100床は7月中に開設予定）

コロナ治療が終了した高齢者の療養病床への転院促進

保健所支援

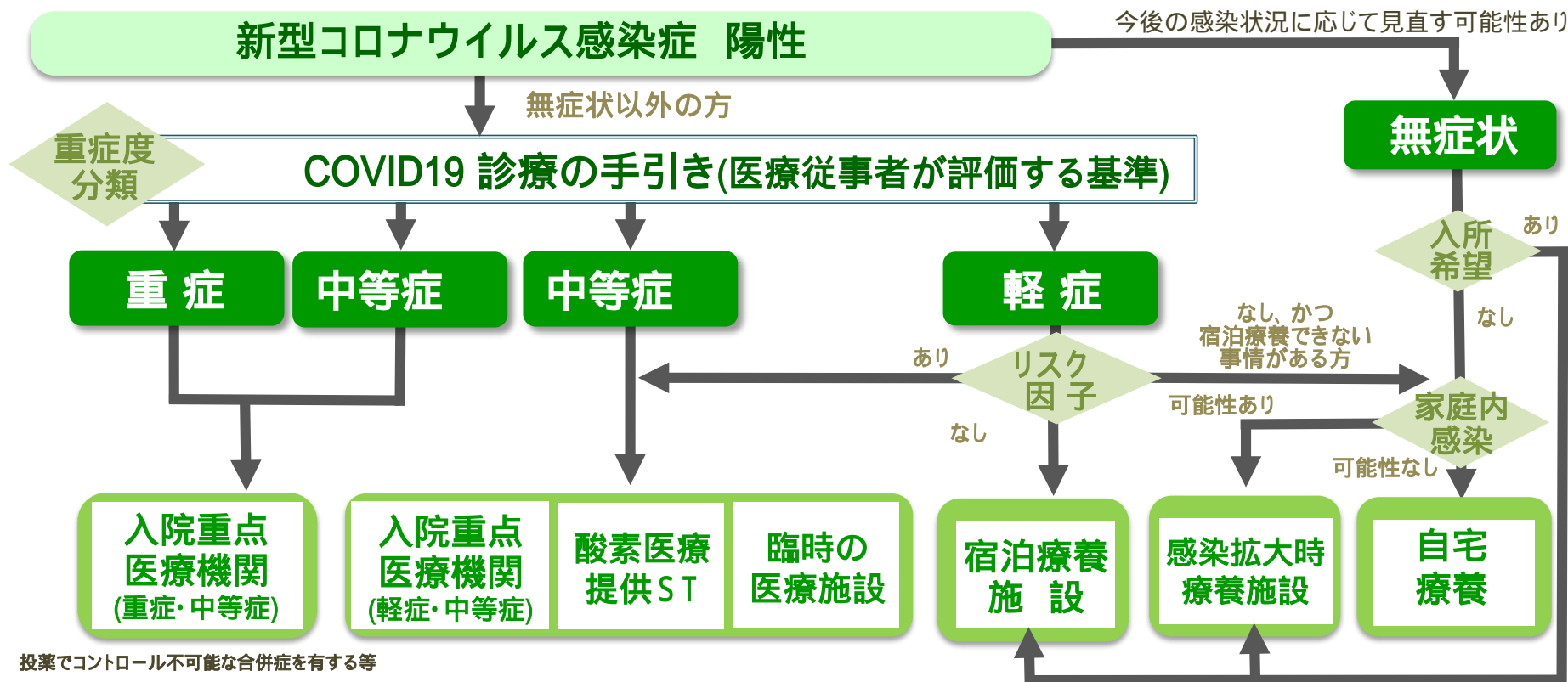
都職員の派遣（約100名規模）、見える化やチャットボット、ウェアラブル端末による健康観察を実施、進捗確認ツールの区市保健所への横展開（4月～）

感染状況に応じた療養体制について

感染者が置かれている環境や症状の経時的変化、重症化のリスク因子の程度等を考慮し、総合的に判断

区分	通常時	感染拡大時
入院重点医療機関 (重症・中等症)	・重症 ・中等症	・重症 ・中等症
入院重点医療機関 (軽症・中等症)	・中等症 ・軽症(リスク因子あり)	・中等症 ・軽症(リスク因子あり)
酸素・医療提供ステーション		・中等症 ・軽症(リスク因子あり)
臨時の医療施設 (高齢者等医療支援型)		・中等症 (リスク因子あり) ・軽症(リスク因子あり)
臨時の医療施設 (医療機能強化型・ 妊婦支援型)		・中等症 (リスク因子あり) ・軽症(リスク因子あり) ・無症状(家庭内感染の可能性あり)
宿泊療養施設		・中等症 (リスク因子なし) ・軽症(リスク因子なし・家庭内感染の可能性あり) ・無症状(家庭内感染の可能性あり)
感染拡大時療養施設	・軽症(リスク因子なし・宿泊療養できない事情あり) ・無症状(家庭内感染の可能性あり・入所希望あり)	・軽症(リスク因子なし・家庭内感染の可能性あり) ・無症状(家庭内感染の可能性あり)
自宅療養	・軽症(リスク因子なし・宿泊療養できない事情あり) ・無症状(家庭内感染の可能性なし)	・軽症(リスク因子なし・家庭内感染の可能性なし) ・無症状(家庭内感染の可能性なし)
保健所、フォローアップ センター等の健康観察	SMS送信、初回架電、毎日の健康観察	SMS送信、初回架電(入院の恐れのある方等、50歳以上又は基礎疾患ありの方等、SMS不通者)、毎日の健康観察(と)

通常時の療養体制（イメージ）



感染拡大時の療養体制（イメージ）

新型コロナウイルス感染症 陽性

今後の感染状況に応じて見直す可能性あり

無症状以外の方

無症状

重症度
分類

COVID19 診療の手引き(医療従事者が評価する基準)

重症

中等症

中等症

軽症

なし

リスク
因子

あり

リスク
因子

なし

可能性あり

家庭内
感染

可能性なし

入院重点
医療機関
(重症・中等症)

入院重点医療機関
(中等症) (軽症)

臨時の医療施設
(高齢者等
医療支援型)

酸素
医療
提供
ST

臨時の医療施設
(医療機能強化
型・妊婦支援型)

宿泊療養
施設

感染拡大時
療養施設

自宅
療養

ワクチン接種の促進策

3回目接種の加速

① ワクチン接種の効果や必要性の発信

- 都と区市町村が連携し、**企業や大学が集積した駅等**でワクチン接種を呼びかけ
- **新宿西口**(大型ビジョン・地下通路・スマートポール)、**渋谷**(デジタルサイネージ)、**ゆりかもめ**(車内ビジョン)などでPR
- **オリンピックパラリンピック1周年イベント**等、各種イベントでの周知・呼びかけ
- **東京iCDC専門家のメッセージ**をホームページ・YouTube・Twitter・TikTok等で発信
- **若者向けにインフルエンサーを活用**した接種促進呼びかけ(ショート動画等)

② 利便性の高い接種会場の周知

- **主要駅周辺で利用しやすい**(在学・在勤者が接種可能、夜間開設、予約なし可等)、**都と区市町村の接種会場一覧**を作成し、周知

ワクチン接種の促進策

③大学や専門学校、企業への働きかけ

- ゼミ合宿等で集まる機会が多い夏休み前に、**大学・専門学校**へ周知レターを发出
- **ワクチンバスの機動力を活かし**、若い世代への接種を促進(職場、大学等)
- **職域接種3回目未実施企業**に架電・訪問し、社員の接種推進を働きかけ
- 接種機会を活用した**SNSキャンペーン**の実施

④都・大規模接種会場の利便性向上

- モデルナに加え、**ファイザー**(行幸地下・立川南)・**ノババックス**(都庁南展望室・立川南)の**予約なし接種**を開始済み(7/4~)

4回目接種の推進

- **高齢者・障害者施設入所者**の確実な4回目接種促進(接種計画推進・ワクチンバス派遣)
- 基礎疾患を持つ方等に対する**医療機関**からの働きかけを依頼
- **高齢者団体、企業**に対して、対象者への周知、接種呼びかけを依頼